

令和6年度 市民意見交換会（経済建設常任委員会）

《令和7年2月13日（木）》

意見交換の相手団体：たつの市集落営農連絡協議会

意見交換会のテーマ：たつの市の農業の現状と課題について

主な意見（一部抜粋）

- 2005年頃から個人農家でやっていくのが厳しくなっている。農機具を購入するのにも補助や、県や国の支援なども必要と考える。
- 今までは個人耕作で管理できたが高齢となり農作業ができなくなった。また、高齢者もいないという耕作者が営農でやってもらいたいと依頼は来るようになったが、営農自体も現状担い手は高齢者ばかりとなり、若者が市外へ転出して農業離れが加速して後継者がいない。市としては将来の農業をどうやっていくのか。
- 公務員が副業で農業がお手伝い出来る仕組み作りをする事で労力があがる。
- 市の農政課に農業に詳しい継続性のある人材を置いて欲しい。例えば丹波篠山市では、農業技官という人員を1名配置している。県のOBで国や県の補助金を積極的に案内していくような対応をしている。
- 国の審議委員会などに参加をして意見や要望を言っても、北海道や岩手県などの規模と比較をされてしまい、守るのが仕事だと言われてしまう。
- そうめん業界の通年雇用の中に、閑散期に百姓も組入れてもらったり、女性の活躍にも期待する。
- ラジコンで草刈りをして、ロボットまではいかなくても直線アシストのトラクターなどを駆使して高齢者でも出来るスマート農業の時代が来ている。市からの補助の情報発信をお願いしたい。
- 企業にもお願いをして、土日に手伝ってもらえる人材などを確保したい。
- 昔の友人に直接宅急便で販売をしていると、違いがわかっておいしいと口コミでだんだん広がっていき、今では20件ほどになっている。



- バジルや山椒は女性中心でやっているの、組合に女性役員の適任者に入ってもらい、女性部のような形も出来たらと思う。
- どの業界も後継者不足が続いており、そうめん業界も似たような課題がある、儲けが出て賃金を上げていかないといけない。
- 田植えや稲刈りなどの、繁忙期に大学生や高校生など若い世代向けのバイトを募集等をして農業に興味を持ってくれる若者を地元から排出していけばどうか。
- 米を作った人間が儲からないといけないこれが大前提で、新しい法律改正に関しては期待したい。

【所感】

- 丹波篠山市が兵庫県で初めて公務員が農業に従事する事を認めた条例を作った。黒豆をブランド化して営農のような仕組みを作っているのヒントがあると思う。
- 専門家を入れた方がよいというのは議会でも出ていて、最近ではデジタル監など民間の人を雇用している。農業や水産業にしても専門的な人がいた方がよい。